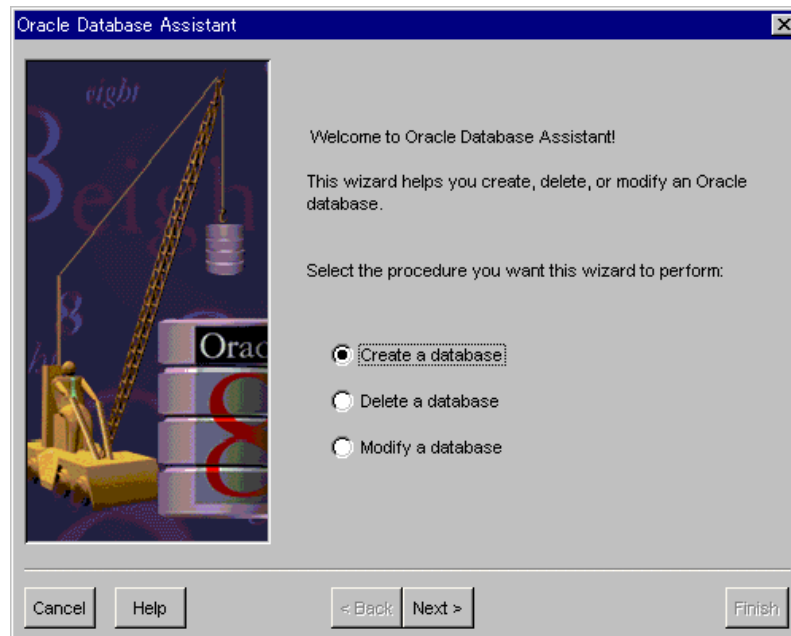


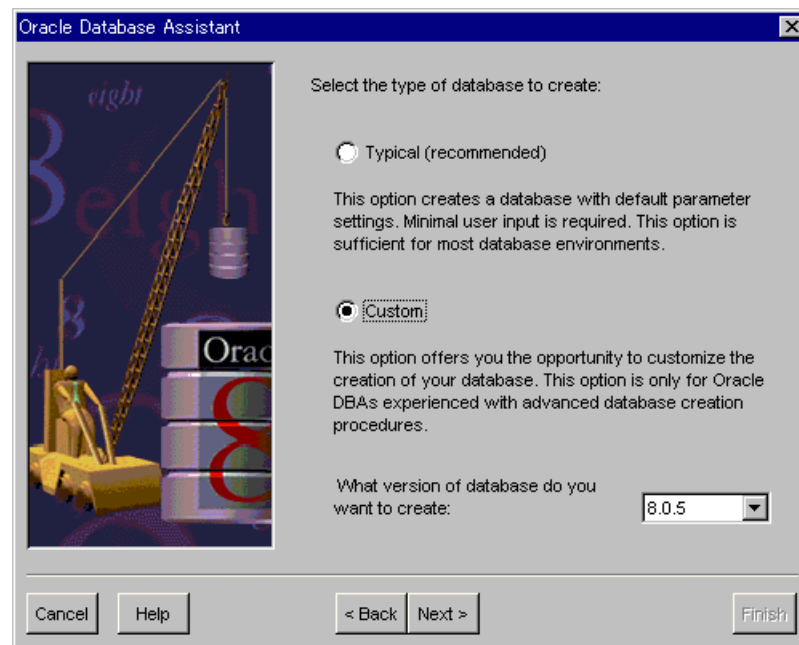
Oracle 8.0.5 でのデータベース(SID)の作成方法

PDS で使用するデータベースの作成方法を示します。ここでは、作成するデータベースの SID (データベース名)を“PDS”とします。また、データベースファイルは D:\ORADBF フォルダ以下に作成するものとします。以下の作業は、データベースサーバに対して Administrator としてログオンした状態で行います。

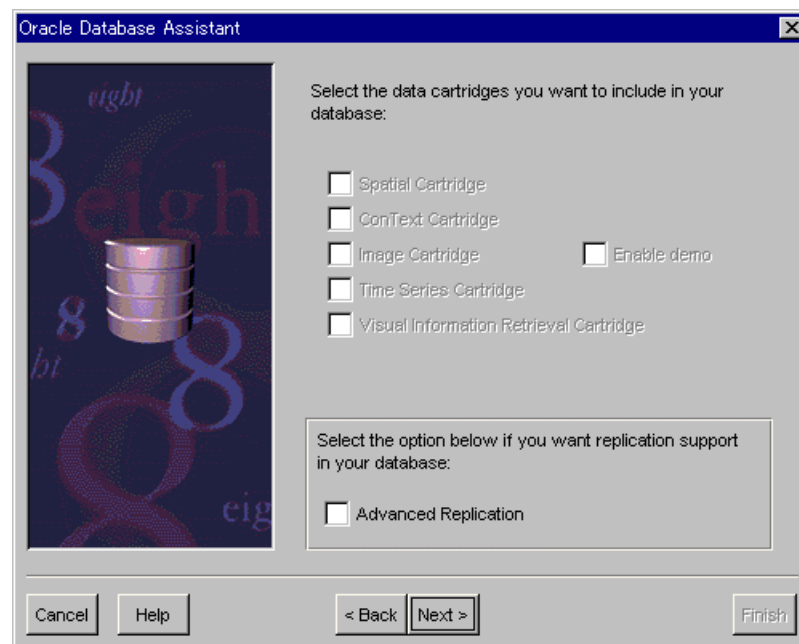
- 1) Windows NT エクスプローラなどを使用して、D:\ORADBF フォルダを作成します。また、そのフォルダ内に trace フォルダ(D:\ORADBF\trace)を作成します。これらのフォルダには、RIS のスキーマを作成する際に指定する OS ユーザが書き込みを行えるようなアクセス権を設定しておきます。
- 2) **スタート**メニュー プログラム Oracle for Windows NT Oracle Database Assistant を起動します。
- 3) Create a database を選択し、**Next >** ボタンを選択します。



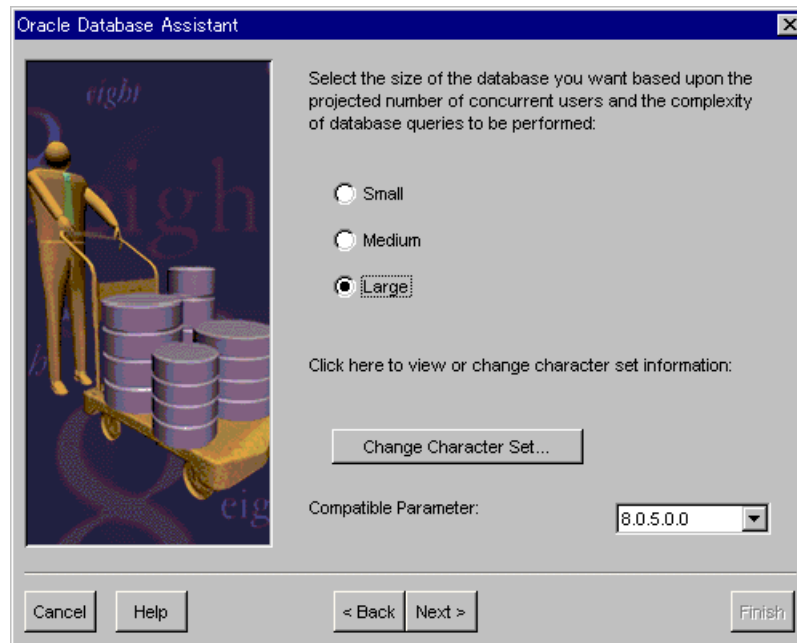
- 4) Custom を選択し、**Next >** ボタンを選択します。



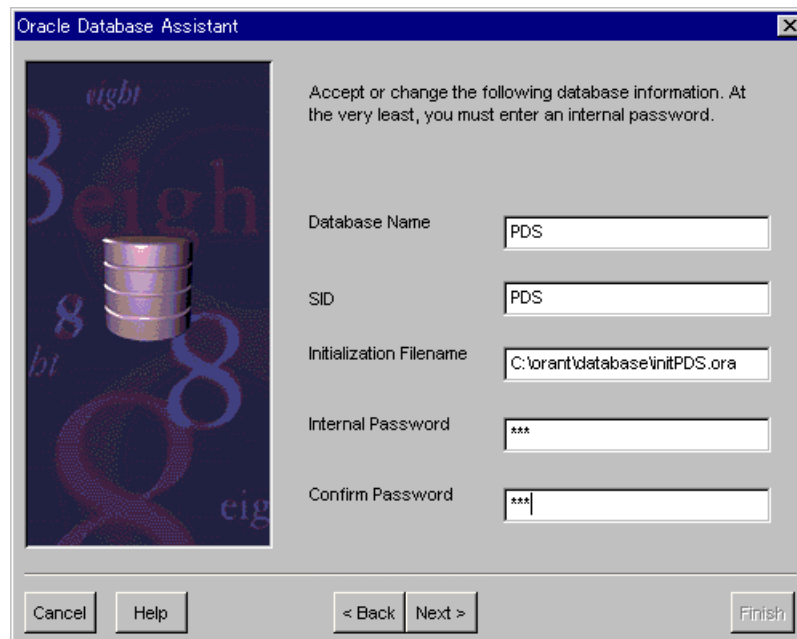
5) 以下の画面では、デフォルトの設定のまま、**Next >** ボタンを選択します。



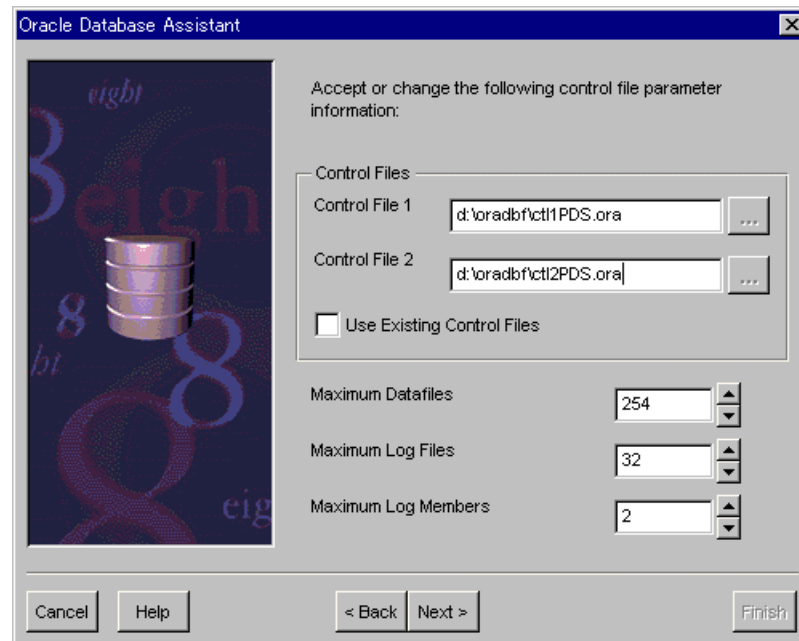
6) データベースのサイズとして Large を選択し、**Next >** ボタンを選択します。



- 7) Database Name および SID に対して、作成するデータベースの名称を入力します。Initialization Filename のファイル名は、SID を基にソフトウェアが決定します。Internal Password および Confirm Password に対して、データベースの起動/停止を行うユーザ(internal)のパスワードを指定します。Next > ボタンを選択します。



- 8) Control File 1/2 に対して、d:\oradb\ctl1PDS.ora d:\oradb\ctl2PDS.ora と入力します。
Next > ボタンを選択します。



- 9) 各テーブルスペースに関する設定値を入力します。

SYSTEM

Size 100MB
 File d:\oradb\sys1PDS.ora
 Auto Extend OFF

USER

Name PDS
 Size 300MB
 File d:\oradb\pds1PDS.ora
 Auto Extend OFF

ROLLBACK

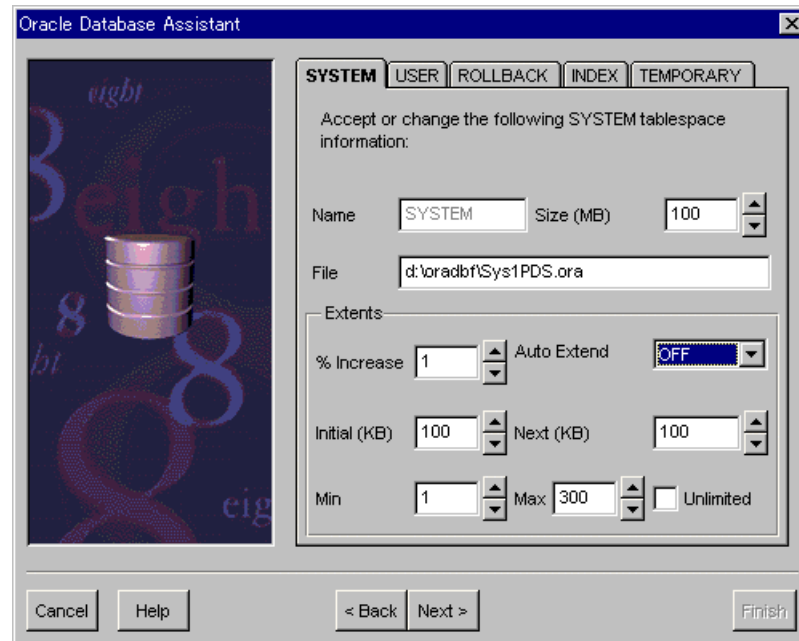
Size 50MB
 File d:\oradb\rbs1PDS.ora
 Auto Extend OFF

INDEX

変更しない。(PDS ではインデックス用のテーブルスペースを使用しないため)

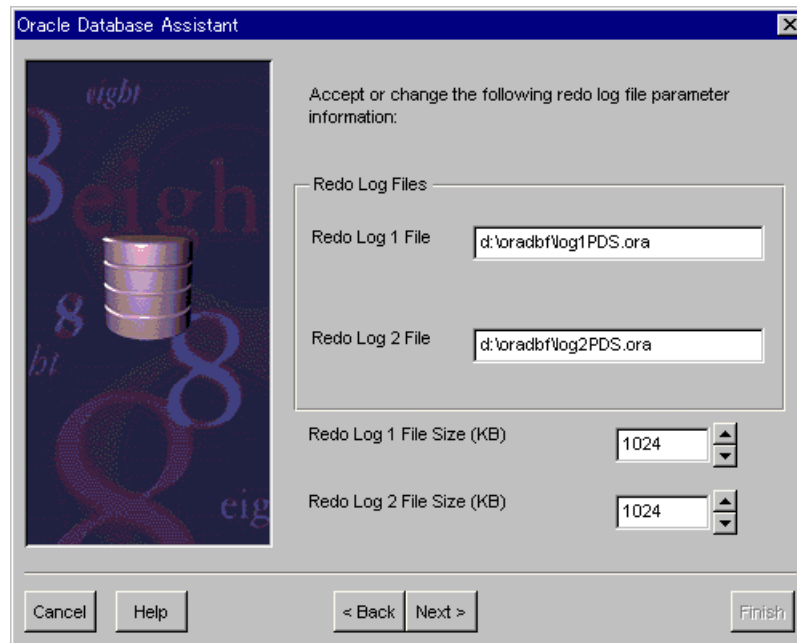
TEMPORARY

Name	TEMP
Size	30MB
File	d:\oradbf\tmp1PDS.ora
Auto Extend	OFF

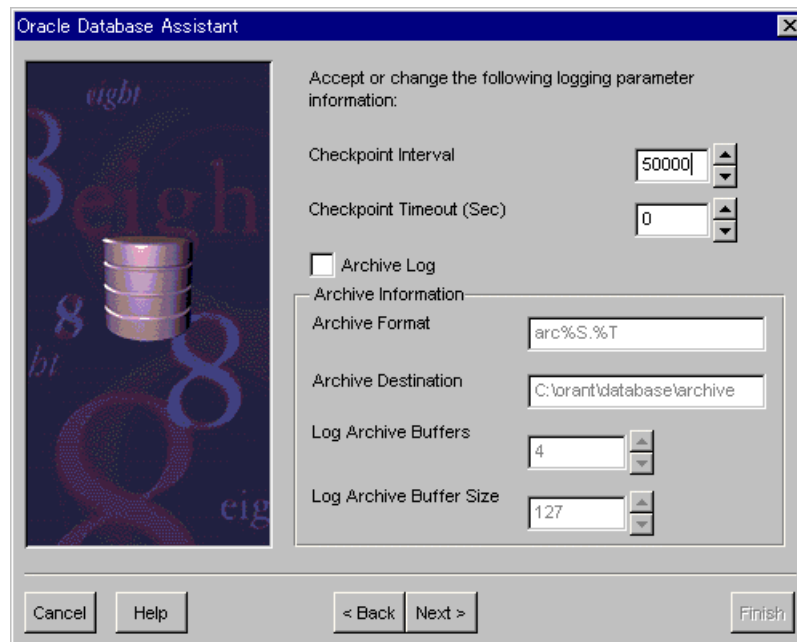


各項目の入力を行った後、**Next >** ボタンを選択します。

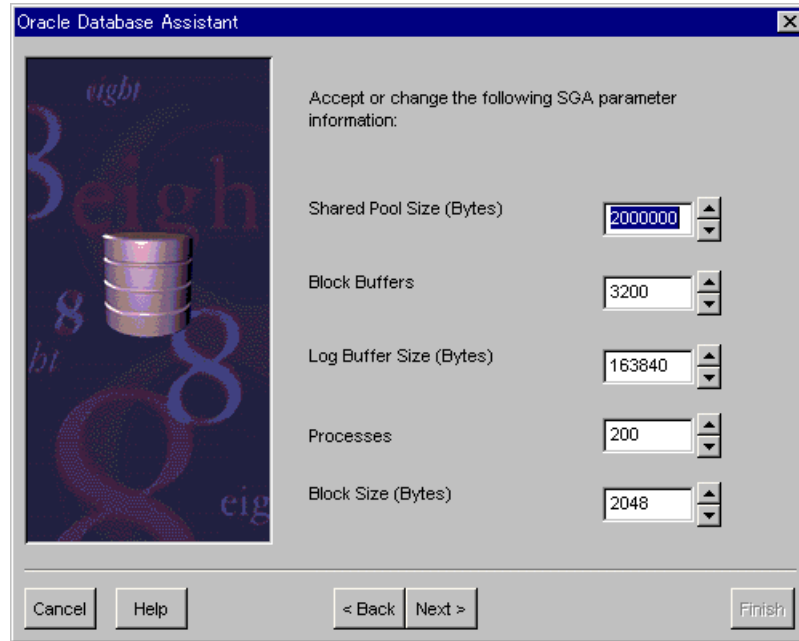
- 10) Redo Log 1/2 File に対して、d:\oradbf\log1PDS.ora d:\oradbf\log2PDS.ora と入力します。**Next >** ボタンを選択します。



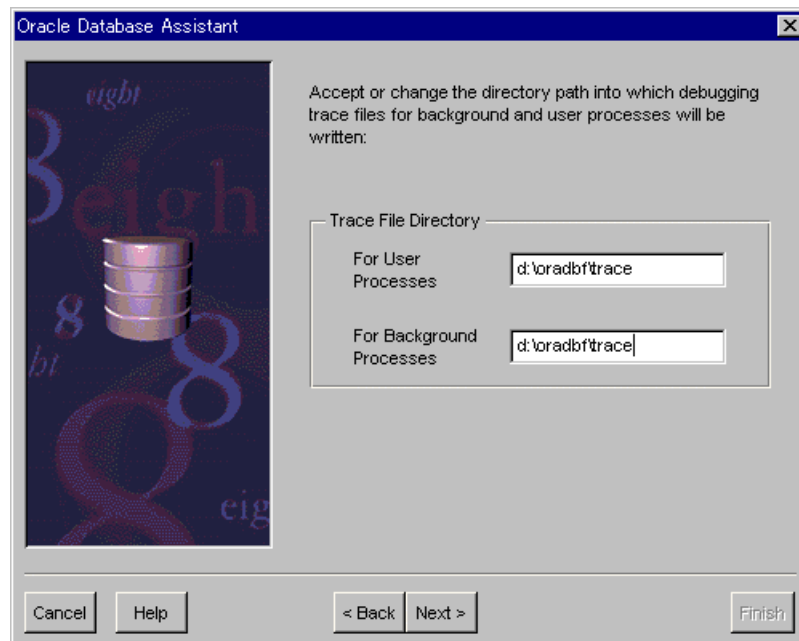
11) Checkpoint Interval に対して、50000 と入力します。 **Next >** ボタンを選択します。



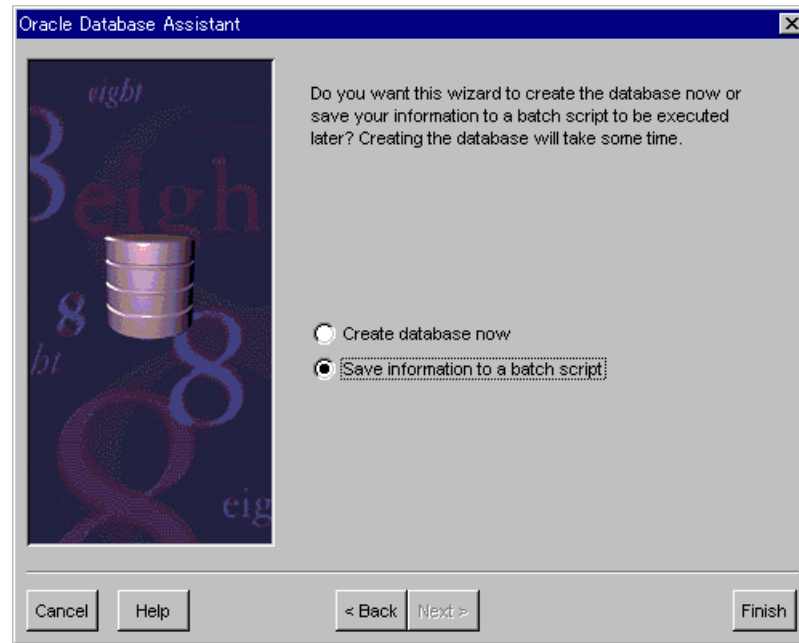
12) 以下の画面では、デフォルトの設定のまま、 **Next >** ボタンを選択します。 Shared Pool Size, Block Buffers 等の設定は、必要に応じてデータベース作成後に変更することが可能です。



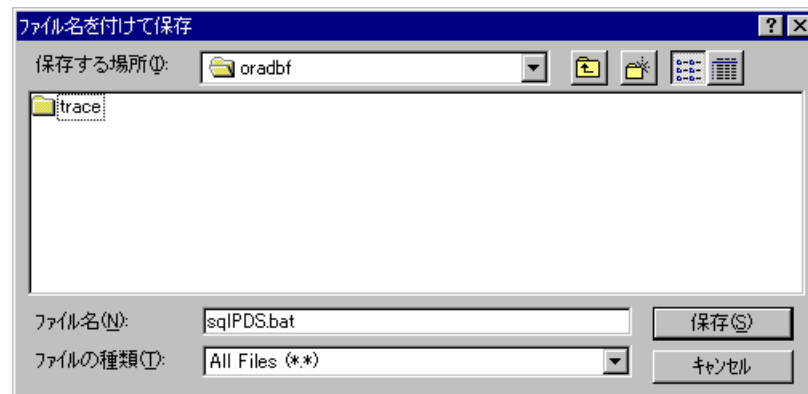
- 13) 各 Trace File Directory に対して、d:\oradb\trace と入力します。Next > ボタンを選択します。



- 14) Save information to a batch script を選択し、Finish ボタンを選択します。



- 15) スクリプトファイルを保存するフォルダとして、D:\oradbf を選択します。保存ボタンを選択します。



- 16) 以下の3つのファイルが作成されます。

sqlPDS.bat

PDSrun.sql

PDS1run.sql

これらのファイルを、以下のように修正します。

PDSrun.sql

LOGFILE の部分を、以下のように変更します。

```
LOGFILE 'd:\oradbf\log1PDS.ora' SIZE 10M,  
        'd:\oradbf\log2PDS.ora' SIZE 10M,  
        'd:\oradbf\log3PDS.ora' SIZE 10M
```

PDS1run.sql

INDX テーブルスペースに関連する部分(REM...から ALTER...の 4 行)を削除します。

以下の 2 つのコマンドをコピーし、RB0 から RB19 までの 20 個のロールバックセグメントが作成されるようにします。

```
CREATE PUBLIC ROLLBACK SEGMENT RB0 TABLESPACE "RBS"  
STORAGE ( INITIAL 50K NEXT 50K MINEXTENTS 2 MAXEXTENTS 121 );
```

```
ALTER ROLLBACK SEGMENT "RB0" ONLINE;
```

以下のコマンドを削除します。

```
alter user system default tablespace pds;
```

alter rollback segment "SYSROL" offline; コマンドの次の行に、以下のコマンドを追加します。

```
drop rollback segment sysrol;
```

17) sqlPDS.bat ファイルを実行します。終了後、C:\orant\database にログファイル (spoolmain.log)が作成されます。

18) コマンドプロンプトを起動します。以下のコマンドを実行し、Server Manager を起動します。

```
C:\>set ORACLE_SID=PDS
```

```
C:\>svrmgr30
```

19) Server Manager に対して以下のコマンドを入力し、ユーザ internal として connect します。(以降にユーザ internal のパスワードを指定します。)

SVRMGR> **connect internal/pds**

20) 以下のコマンドを入力し、データベースを停止します。

SVRMGR> **shutdown**

21) C:\orant\database\initPDS.ora ファイルに以下の行を追加します。

```
rollback_segments = (RB0, RB1, RB2,... RB18, RB19)
```

22) Server Manager に対して以下のコマンドを入力し、データベースを起動します。

SVRMGR> **startup**

23) ユーザ system として connect し、以下のコマンドを実行します。

SVRMGR> **connect system/manager**

SVRMGR> **@c:\orant\rdbms80\admin\catdbsyn.sql**

(ORA-04043 などのエラーが発生する場合がありますが、無視します。)

24) Server Manager を終了します。

SVRMGR> **exit**